

## ■ 第 53 回北海道開発局空港技術研究会議の開催

北海道開発局 港湾空港部 空港課

平成 26 年 12 月 3 日に札幌第 1 合同庁舎 2 階講堂にて第 53 回北海道開発局空港技術研究会議を開催し、およそ 100 名の参加がありました。

本会議は、空港整備に携わる担当者の技術の研鑽など図る目的として毎年開催されており、発表者及び聴講者は空港管理者（国・自治体）、建設業社、建設コンサルタントなどの方々に聴講していただきました。

開催にあたり、北海道開発局川合港湾空港部長から、北海道の国際線旅客の利用はアジア地域からの北海道観光が大変好調で、特に冬期においても観光客が多くなってきており、冬期運航のサービスレベルを向上するため、今後寒冷地空港の技術に力を入れて行きたいとの挨拶で始まりました。

はじめに「寒冷地における舗装体の健全度評価に関する一検討」（独立行政法人土木研究所寒地土木研究所安倍主任研究員）、「航空輸送が地域医療に果たす役割に関する実態調査の結果について」（国土技術政策

総合研究所波多野国際海事分析官）、「旭川空港エプロン改良工事について」（旭川市宮森主任）、特別講演として「エアラインにおける冬期オペレーション」（全日本空輸(株)ラインサポートチーム大瀧様）、「釧路空港高盛土の安定解析について」（釧路開発建設部大水係長）「成田空港における手荷物取扱施設の現状と今後の展望について」（成田国際空港(株)片岡副主幹）、最後に「関西国際空港の運用状況と第 3 ターミナル計画等について」（新関西国際空港(株)江村次長）に発表していただきました。

発表していただいた内容について積極的な質疑があり、聴講者の方々の関心の高さが伺え、また、参加者から今後も本会議を継続して欲しい、次回の講演して欲しい内容などの多くのお声などもあり、本会議の重要性を感じております。

お忙しい中、本研究会議で発表していただいた皆様ならびに聴講にお越しいただいた皆様に感謝申し上げます。



発表の様子



特別講演の様子